

学習者が主体となる説明的な文章の授業

～文章における筆者の工夫、対象に寄せる筆者の思いに着目し

実践の概要

「生徒が教材と触れて感動を味わい、その感動の要因を分析する中で、自分の考えや思いを表現すること」を主体的な学習者の姿と捉え、生徒が優劣を超えて、自身の言葉の力を惜しまず発揮する国語教室の具現を目指している。近年は、「説明的な文章の授業で、学習者が主体となる国語教室をつくるにはどうしたらよいか」という課題をもっている。

本実践では、目的に沿って文章を読み、文章の内容や構造を把握して精査・解釈することで自分の考えを形成する生徒の実態と、科学的真理を探究する過程の奥深さと楽しさを味わうことができ、論理の展開を考えることにふさわしいという教材「クマゼミ増加の原因を探る」の特性を照らして、「文章の内容や構成を踏まえて、筆者の研究の姿勢について、自分の考えを文章にまとめる」言語活動を中心に据えた単元を構想した。

「物事の原因を追究するには、世間一般にいわれていることをうのみにするのではなく、科学的な根拠を一步一步積み上げて臨む姿勢が大切である。」



クマゼミの声が以前よりよく聞こえる
大阪市内では、ほとんどクマゼミの声



多様な視点からクマゼミ増加の原因を探る
沼田 英治

なぜクマゼミは増えたのか？
地域の都市化、気温上昇、湿度の低下、ヒートアイランド現象（都市部の温度が周辺より高くなる現象）

- ◎ 気温上昇で冬の寒さが和らいで、以前よりも冬を越す卵が増えた！
- ◎ 気温上昇で卵の孵化が梅雨に重なり、以前よりも孵化できる卵が増えた！
- ◎ クマゼミの幼虫は土を掘る力が強く、硬くなった地面に潜ることができた！

クマゼミ「セミの王様」
全長6、7センチ
重厚、黒光り
金色の輝く毛
数が少なく、めつたに捕ることができない

沼田さんのセミへの思い	セミに対する熟意。沼田さんのロミへの思いはとても強いと感じました。	インタビューの動画でもおっしゃっていたように、セミは土の中で約7年も過ごしますそのため研究も同じくらいかかるはずなのに、と研究し続けることができた沼田さんはすごいと思うし、セミが大好きなんだと思いはしました。そして、前提や仮説、図表など、とてもわかりやすい文になっていて、どうしてクマゼミが増加したのかがとてもわかりやすかったです。私は「孵化」ということを知らず、雨の日に孵化するということも初めて知りました。この「クマゼミ増加の原因を際る」を読んで、セミのことをもっと知、たし、興味を持ちました。	私も好きなことに集中して取り組みたいと思いつ、一歩一歩積み上げて臨む姿勢にしたいと思いました。
-------------	-----------------------------------	---	---